

彼に褒められる
“キレイな乳首”の作り方

バストBOOK

彼に褒められる“キレイな乳首”の作り方

彼と知り合ったのは、年齢も職業も様々な異業種交流会。5つ年上の32歳の彼は優しそうで、女性の話をきちんと聞いてくれるタイプ。メーカーの総務という名刺をもらったときも、社員の世話係りという仕事に好印象を受けたので、メルアドを教えました。

出会ってすぐにメルアドを教えるなんて珍しいことですが、最近友達の結婚ラッシュが続き、3年ほど彼のいない私にも“春よ、来い”と少し積極的な気持ちになってきたのかもしれません。

その後何度かメールのやり取りをしてデートしましたが、3ヶ月経っても手も握らないので、おくてなのかなあと思っていました。

私も仕事が忙しかったので、そのことをあまり気にかけないようにして、デートに誘われても残業があるときは断ったりも。それでも彼からメールがくるので、メル友&ボーイフレンドとして彼と何となく切れずにいたのです。

仕事が一段落したころ再び彼に誘われたので、久しぶりにデート。いつもと違って、渋谷の郊外にあるしゃれたイタリアンのお店でワインを勧められ、あまりお酒を飲めない私でしたが、お店の雰囲気といつも以上に優しい彼の態度に、ついつい3杯くらい飲んでしまいました。終電の時間が迫ってきた頃、彼が真面目なので顔でまっすぐ私を見て、ついに告白してくれたのです。

「結婚を前提につきあってくれないか。」

思ったとおりの真面目な人でした。今度、部署が変わって新規事業立ち上げに参加することになったため、

忙しくて頻繁に会えないけど、事業が軌道に乗った頃に、結婚しよう。

私はコクンと頷きました。プロポーズをきちんとしてくれた彼の誠実さに、うたれたからです。この人だったら、私を守ってくれる。嬉しい存在に思えました。それから自然の成り行きでホテルへ直行。ベッドでの彼は自分で主導権を握りたがるタイプで、彼は私の体を「綺麗だね」と褒めてくれました。特に「乳首がほほピンク」とうれしそうに。

実は半年前にある女性誌で、乳首の色と乳首の色とセックス経験についてはまったく根拠はないけど、男性から誤解されることもあるという記事に、ショックを覚えたことがあるのです。自分でボディをチェックしてみると、乳首に少し黒ずみが。さらに脇の下、Vラインなど、デリケートな部分にも少し黒ずみ……黒っぽい乳首よりも明るいピンク色の方がきれいに見えます。しかもさほど経験がないのに経験豊富と誤解されるのは、あまり気持ちのいいものではないですね。きれいなボディになるためにも、黒ずみをきれいにしようと前向きになり、ネットで色々調べてみました。

ナチュラル志向の私は、保存料・安定剤等は一切使用していない石鹸にピンときて、さっそく使ってみました。

気になる部分に泡パックして洗い流すだけ。さっぱりとした感触がとても心地よく毎日気軽に使用してみました。そうしたら黒ずみが何となく薄くなってきて……

彼に褒められたときに、使ってみてよかったなあ、って、素直に喜びました。
もちろんコンプレックスを解消してくれたソープを、
今でも愛用していますよ。